

令和7年1月定例教育委員会会議録

令和7年塩尻市教育委員会1月定例教育委員会が、令和7年1月30日、午後1時30分、塩尻総合文化センター大会議室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

報告第1号	主な行事等報告について
報告第2号	2月の行事予定等について
報告第3号	後援・共催について
報告第4号	塩尻市議会12月定例会報告

4 閉 会

○ 出席委員

教育長	赤 羽 高 志	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委 員	徳 武 あ ゆ 子	委 員	甕
委 員	八 島 思 保		

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	百 瀬 一 典	交流文化部長	胡 桃 慶 三
こども教育部次長	竹 中 康 成	交流文化部次長	上 條 史 生
(こども未来課長)		(社会教育スポーツ課長)	
学校教育課長	上 條 崇	文化財課長	古 畑 比 出 夫
教育施設課長	五 味 克 敏	平出博物館長	小 松 学
保育課長	塩 原 清 彦	市民交流センター	矢 澤 昭 義
		長(図書館長)	
主任学校教育指導員	村 上 啓		

○ 事務局出席者

教育企画係長	佐 藤 智 樹
--------	---------

1 開会

赤羽教育長 皆さん、こんにちは。新しい年を迎えての初めての定例教育委員会であります。本日は、百瀬こども教育部長が欠席であります。

正月明けの1月5日朝のことです。塩尻西小学校の大野征二校長先生が急逝したとの訃報連絡が入りました。今でも思い出し、心に大きな穴がぽっかり空いたままであります。定例教育委員会におきましても大野征二校長先生の御冥福をお祈りし、まず1分間の黙祷をささげたいと思います。皆さん、御起立をお願いします。では、黙祷。

〔黙祷〕

赤羽教育長 ありがとうございます。御着席ください。

それでは、ただいまから1月定例教育委員会を開会いたします。

2 前回会議録の承認

赤羽教育長 次第に従いまして、2番、前回会議録の承認について事務局からお願いします。

佐藤教育企画係長 前回、12月定例教育委員会会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名いただきますので、よろしく願いいたします。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 それでは、そのようをお願いいたします。

3 教育長報告

赤羽教育長 続いて3番、教育長報告に入ります。私からは3点報告いたします。

まず1点目。1月5日の朝、市役所に向かっていた車中、電話が入り、内容は塩尻西小学校長大野征二先生の訃報連絡でした。教育長室に入ると、深い悲しみが襲ってきました。

6日朝、塩尻西小学校に出向き、中村教頭先生と打合せをしました。この日、仕事始め式、新年祝賀交歓会が行われました。その後、私はすぐ大野校長先生の御自宅に伺いますと、大野征二校長先生は静かに眠ったままでした。7日、中信教育事務所主幹指導主事が訪問され、学校や塩尻市からの要望を直接聞いていただくことができました。8日朝、大門児童館長と打合せ。9日は、市内8小学校が始業式か朝の行事。塩尻西小学校では、中村教頭が始業式の中で校長代行として子どもたちに悲しい報告を行い、式の後、校長サポート役の前吉田小学校長富田昭子先生の紹介を行いました。11日、出棺の道中、塩尻西小学校へ立ち寄り、とても寒い朝でしたが、有志による西小ライブ、大野先生に贈る西小スペシャルライブが行われました。

MGプレスには、「11日、病気のため5日に56歳で急逝した大野征二校長を見送る西小スペシャルライブが開かれた。児童が好きなことを発表できる西小ライブを提案し、地域で子どもを見守る学校づくりに取り組んだ故人を慕う児童、保護者、教職員、近隣住民ら400人が集まり校歌を合唱して別れを惜しんだ」と掲載されていました。

そして午後、弔問には途切れることがない長い列ができ、故人の御冥福を祈る姿が絶えませんでした。その後、親族と大学時代からの旧友や教職員仲間とで葬儀がしめやかに執り行われました。御遺族の皆様、塩尻西小学校の児童、教職員など、多くの方々には心の準備が全くない中、頼りになる大切な人を亡くし、強い心の痛みを持っておられます。

私は先日、学校訪問をさせていただきました。廊下から各教室の授業の様子や専科や体育

の時間で空き教室の教室の中など、見させていただきました。今までと変わらず落ち着いた授業が続き、元気よく発言している声や笑い声が聞こえてきました。教室環境も隅々まで整っており、掲示物も温かい学級づくりが伝わってきました。外もきれいで、地域の方も協力してごみ拾いをしていただいているとお聞きしました。休み時間になると、多くの子どもたちが外に出て遊びに興じていました。

私は、故人・大野征二先生とは 20 年前は同じ職場の同僚で、3 年間一緒に仕事をしました。学校教育に尽力し、優しく思いやりがあり、子どもたちや教職員、地域の皆様との距離が近い大野先生でした。まだ 56 歳。夢実現に向け、やりたかったことはこれからなのに、突然のお別れをしなければならないことは今でも心が詰まる思いでございます。心より御冥福をお祈りいたします。

続いて 2 点目です。1 月 12 日ですが、塩尻市二十歳のつどいが、平成ノブシコブシの吉村崇さんをお迎えし、平成 16 年 4 月 2 日から平成 17 年 4 月 1 日の間に生まれた二十歳を迎えた若者との一体感あるイベントとこの日はなりました。

まず式典では、百瀬敬市長からの式辞で、二十歳を節目として前途を祝福し、社会人としての意義と責任についての自覚に触れた後、記念行事にはスペシャルゲストを呼んでいますとの突然の発表に、静粛だった会場の雰囲気がこの瞬間からざわつきを見せました。令和 7 年の対象者は 621 名で、当日の参加者は 456 名の二十歳の皆さんが全国各地からレザンホールに集まりました。

市内小学校 6 年生は、劇団四季によるここの劇場鑑賞というのがレザンホールで行われております。8 年後にはまたこの二十歳のつどいで集合すると、こんなことが今続いております。

「二十歳の節目を迎えることができたのは、家族、友人、先生方、地域の方々のおかげです。高校生活の 3 年間を侵食していった新型コロナウイルス感染症。日々の行動や様々な行事、イベントの制限を余儀なくされたからこそ、今までの日常が、そして周りの人たちとのつながりがどれだけありがたく幸せなものであるかを深く実感しています。常に周りの人のことを考え、精一杯支えていく人になれるよう精進します」と、広丘地区出身の藤森寛生さんが力強く誓いの言葉を述べました。

記念行事では、吉村崇さんが登場し、式典前、外で大きなバイク音が聞こえていたよねという話から、だけど、ちゃんと信号機は守っていましたよと挨拶すると、一気に会場が盛り上がりました。持ちネタ披露ではなく、実行委員からの質問を吉村さんが回答する形式でスタートしました。

二十歳でやっておいたほうがいいことの質問に、お金がない時代だけれど、借金をしてでもいろいろな場所に足を使って出かけて、日本を離れ世界に行くと、外国や日本のよさや状況も見えてくる。いろいろな出会いもある。そして、地元塩尻のよさも分かるよと、吉村さんは体験談を語りました。

反対に吉村さんから塩尻市の特色を聞かれて、司会者が短歌の里ですと答えると、では最後に短歌、五・七・五・七・七で一句お願いしますと宿題が出されました。フロアからも自ら挙手をして、自分の体験談から「九州で付き合っている子に告白する方法は」、「劇団員を目指している。緊張を和らげる方法は」等の質問が出て、吉村さんとトークをしながら会場全体を巻き込んで、皆が共有していく場面が展開されました。吉村さんのユーモアと御自身

の体験談からの名回答に、会場が最後まで沸きました。

そのやり取りを聞いていて、会場 みんなが自分ごととして捉えて、心の中にみんなそれぞれの問いが生まれているのではないかなということを私は感じました。最後、短歌の宿題を2人が発表して閉会となりました。

私の席の隣の参加者は今北海道で働いていて、二十歳のつどいのために戻ってきて、また松本空港から北海道に戻ると話してくれました。そして、力量を高めて、いずれはこの松本平に戻ってくるということも力強く語ってくれました。来年度以降も、すてきな二十歳のつどいになってほしいと願っております。

続いて3点目です。リニューアルオープンしたばかりのえんぱーくで、今、しおじりエコ展をやっています。1月23日から2月3日までの12日間開催され、私は1月25日に見学をしてきました。

まずリニューアルオープンしたえんぱーくの館内ですが、照明が蛍光灯から全てオレンジ色した電球色のLED灯に、ダウンライトは白色のLED灯に変更され、館内全体が端から端まで明るくなりました。また、空調施設がリニューアルされ、館内全体は温度差のない室温が保たれていました。屋上には太陽光発電システムが設置されていて、大幅に電力使用料が抑えられるということをお聞きしています。

学習スペースに行くと、再び多くの学生や大人が訪れて、勉強や調べごとをしていました。その中、勉強に来ていた塩尻西小学校卒業生から、私は声をかけられました。僕は今一浪中です。2月、農学部関係を目指して再受験です。未来ある分野だと思って挑戦します。本当にこの1年間の浪人生活は苦しかった。だから頑張りたいというような報告もいただきました。

1階にある図書館に行きました。おはなし会コーナーでは、イベントをやっていて、大人の方10名くらい、子どもたち20名くらいが部屋いっぱい集まって、読み聞かせや歌遊びに興じていました。

再び3階フロアで開催されているしおじりエコ展に行ったのですが、小学校、中学校、都市大塩尻高校、一般企業や塩尻市森林公社、わおんなど、20団体が参加して、パネルや手作り新聞、ポスター、模造紙などにまとめて発表されていました。出品した作品を親子で鑑賞する姿が何組もこの日ありました。

その中から2例ほど紹介いたします。洗馬小学校4年生と塩尻西小学校4年生は一人一人が、本山浄水場、奈良井ダム、松本クリーンセンター見学をした社会見学新聞を作ってまとめていました。写真や文章は、各自端末のタブレットで打ち込んでいました。

私が特にすばらしいと感じたことは、一人一人みんなキャッチコピーを幾つも掲げてあって、例えば、「信じられない本山浄水場」、「浄水場のろ過の仕組み」、「なんでコイがいるの」、「奈良井ダムの4つの役割」、「1年間で一番ごみが多い月は」、「大きいすごいごみクレーン」、「クリーンセンターのお願い」、「みんなでお弁当」など、自分が興味関心を持ったことをキャッチコピーにして、大きく表示していました。読み手も興味を持って読むことができました。

続いて宗賀小学校ですが、塩尻市森林公社の協力のもと、子どもの森の健康診断を実施しました。森林公社職員から、木の種類や森の働き、森林整備などの研修を受けました。そしてその後、実際にのこぎりを使って木の伐採体験、ロープを引っ張って倒す作業体験をして、

間伐作業によって空が開いて、日光が差し込んで、草木が生え、森が健康になる仕組みを学んでいました。

子どものまとめには、「8月1日、4年生の有志がみどりの少年団交流会に参加してきました。森の中を整備して見つけた宝物をチームごと紹介しました。年輪の刻み方も教えてもらいました」と書かれていました。

また、どんぐりの森の植物や生き物調べ、あふたの清水など、地元の自然、歴史など、体験を通して学習していた様子が分かりました。このように、実体験を通して環境への興味関心が高まっているようでありました。

改めて、各地区にはたくさんの宝物があり、この宝物を次の世代に引き継いでいく仕組みなどの大切さを感じて、私は帰ってきました。

また、えんぱーくリニューアルオープンイベントは、2月1日2日に計画されています。

それでは、各委員それぞれの参加された行事や事業についてお気づきの点などありましたら、この後発言をいただきたいと思います。私からの報告は以上であります。それでは、委員の皆さんよろしくお願いいたします。

碓井教育長職務代理者 先ほど教育長から、塩尻西小の大野校長先生の急逝について、そして、今の塩尻西小の状況についてのお話がありましたけれども、塩尻西小の大野校長先生が御逝去されたことは誠に残念であります。先生の教育実践、思いを生かして、さらに塩尻西小でよい教育活動が続いていくことを願っております。大野校長先生の御冥福をお祈り申し上げます。

私から3点お願いしたいと思います。1点目は、1月の伝統的な行事である三九郎についてです。私の住んでいる地域では、1月13日に公民館の分館と小学校の支部PTAが中心となって開催し、子どもや大人を含め100人以上の方々が集まって行われました。多くの人が集まって、にぎやかに行われたわけでありますけれども、集まっている人の中から、最近、三九郎に松などの青いものが少ないから、山へ取りに行ったほうがいいのかとか、子どもがもっと手伝ったほうがいいのかなどの声が聞こえてきました。

こういう伝統的な行事についての考え方はいろいろあると思いますけれども、私は、時代の変化に合わせて、可能な形で続けていくということが大事ではないかと感じています。ただ、子どもたちの参加の仕方も含めて、やり方を伝えていけるような取組はしていけないといけないなということを、今年の地域の三九郎から感じました。

それから2点目は、1月21日に行われた出口クリスタ選手の塩尻市名誉市民称号授与式についてであります。広丘小学校の体育館で全校の子どもたちの前で行われたわけですが、式に参加した子どもたちが前向きに楽しんでいて、そういう子どもたちの姿を含め、本当にいい式だったと思います。

式の中でクリスタさんから、「夢に向かって最後まで諦めずに、その過程を楽しんでほしい」という言葉があり、ケリーさんからは、「一生懸命を楽しむ」という言葉があったかと思います。オリンピックチャンピオンになるような、このような方々の言葉は大変重いので、子どもたちにしっかり届いたのではないかと思います。

希望なのですが、クリスタさんは様々な活動をされていて、大変お忙しくて難しいとは思いますが、できれば、ほかの学校の児童生徒にもこのような場を設けていただけると、子どもたちにとって成長のよい機会になるのではないかと、そんなことを思いました。

それから3点目は、子どもたちの新聞投書等に関連してです。1月の信濃毎日新聞の投書欄に市内の中学生が何人も人工知能A Iについての考えを投書し、それが載っていましたので読ませていただきました。読まれた方もおいでになるかと思いますが、そこには、人間とA Iは一緒に成長していくことが大事だとか、A Iの発展に危機感があるとか、様々な意見が述べられていました。今まで読ませていただいたのは、全員中学3年生の投書でありましたので、どちらかの中学校で先生が働きかけて取り組まれたのかなと、そんなふうにも思いますけれども、どれも本当にしっかりした意見で、文章にも説得力があつて、私自身、とても学ばせていただきました。

また、ロボコンの全国大会で2人の小学生が入賞し、市長報告をしたという記事や、ビブリオバトル県代表に中学生が選ばれたという記事も別の新聞にありました。

先月の定例教育委員会で教育長から、若い人たちが大活躍した1年だったというようなお話もありましたけれども、子どもたちの活躍が新聞等で紹介されることは本当にうれしいものがあります。このように入選したり、新聞に掲載されたりすることはすばらしいことですけれども、そうでなくても、自分の目標に挑戦したり、自分の考えを深めたり、それを発表したりしていくことは、子どもたちが成長していく上でとても大切だと思います。子どもたちには、このような体験や経験をたくさんしてほしいと、そんなことを願っております。以上です。

赤羽教育長 もし今のことで何か答えられることがあれば。

上條学校教育課長 学校でも大分デジタル教育が進んできていますが、まだ先生によるところはありますけれども、A Iの活用も含めて、極力そのようなものを子どもたちに体験してもらうとか、知ってもらうということは今後の授業にも生かせると考えております。

赤羽教育長 今の碓井教育長職務代理者の意見を受けて何か委員の皆様で。お願いします。

徳武委員 三九郎の話についてです。私も地区の三九郎に行ってきたのですが、確かに年々門松集めの量が減っているという話から、私の地区では、神社の掃除も兼ねて落ち葉とかそういうものを子どもたちが集めて、三九郎の中に入れてたきつけをするということをやっています。やはり私たちも子どもが参加したほうがいい、大人任せでただ集めるだけではなくて、もちろん組立てなどの手伝いもするのですが、事前の準備段階からそういうことを手伝ったほうがいいよねとなりましてそうすると神社の掃除にもなるし、たきつけのものも集まるしということで、そのような活動をしています。参考までに。

赤羽教育長 ありがとうございます。関係してどうですか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

では、ほかのことで委員の皆様お願いします。

徳武委員 私も行事のことで2点お願いしたいと思います。私は、まず1月20日の不登校の親の会にオンラインで講演会に参加させていただきまして、その感想を述べたいと思います。

今回の講師は、信州型フリースクール多様な学びコーディネーターの岩田さんということで、松本市の取組ですとか、ご自分のこれまでの経験などをお話しされていたと思います。多様性を認めることが今回の大きなテーマだったかと思うのですが、私が一番大事だと感じたのは、「今こそ大人が価値観を変えるときが来た。」というところです。以前も不登校の親の会でお話があったのですが、祖父母の世代と住んでいると、学校に行かないということで、どうしても子どもと祖父母の方の間で板挟みになってしまうことをとても悩ん

でいる方がいたことをすごく覚えています。私の近隣の地域でも、学校に行かないということはいいことではないという意識がまだまだ根付いているのは仕方がないことだとは思いますが、その意識の違いがすごく難しい問題なのかなということを感じています。

必要な情報が必要な人にきちんと伝わること、そこを目的としてそういったフリースクールを営んでいるということもありましたし、最終的には、保護者の方が自分の生活を楽しんで、自分がわくわくして笑顔でいれば、子どもも自然とそれについてくるのではないかなということが一番印象に残りました。

先生の連絡先であるとか、こういったことはどうですかというところまでお話しされていて、きっと来ていた方もとても参考になって、多分連絡先を交換したり、そういったこともあったのではないかなと思って聞かせていただきました。ありがとうございました。

それからもう1つ、先ほど教育長のお話がありましたけれど、私もえんぱーくのリニューアル、1月23日当日の夜ですけれども、見に行ってきました。6時過ぎに行ったのですが、すごく明るくて、中へ入った途端びっくりしました。外から見ただけでも、3階の学習スペースはいっぱいだというのわかりましたし、中に入って司書の方ともお話しさせていただいたのですが、今日の開館を待っていてすごく混んでいましたという話も聞いています。私の息子も早速土曜日に友達と約束して行くということも言っていましたし、子どもたちも待ちに待っていたのではないかなと思います。

それで、1点お聞きしたいことがあるのですが、本館の休館中に分館を日曜日に開けていたと思うのですが、その利用状況はどうだったかというのがとても気になりまして、私も日曜日に1回利用したのですが、そのときはほかに利用されている方はいなかったのですが、例えば今後、日曜日に分館も少しでもいいから開けてほしいとか、そういう希望はなかったかというのがとても気になります。私個人としては、例えば予約の本を受取りに行くだけでもいいから、たとえ数時間でもいいから日曜日開いているとうれしいなと思ったことがあるので、日曜日の分館の利用状況がどうであったかというところが気になりますので教えていただければと思います。以上です。

赤羽教育長 図書館長お願いします。

矢澤市民交流センター長（図書館長） 御意見ありがとうございます。23日からえんぱーくがオープンしまして、かなり多くの皆さんに来ていただいております。図書館も利用していただいたりですとか、市民サロンのところで学習している生徒たちも戻ってきてくださっています。

委員からお話ありましたように、分館を日曜日にも開けさせていただいて、水曜日以外の平日の午前中も開館してきましたけれども、12月末で一旦終了としました。期間中、各分館で頂いた意見等も今集約しているところでございます。日曜日は、当初、開館していることを知らなかった方がいらっしゃった部分もございまして、なかなか来ていただけなかったのですが、徐々に来ていただけるようになってきました。分館によって利用の多い時間帯が違うこともあったので、分館ごとにしっかりまとめたいと思っております。

今回、本館休館中にスタンプラリーを行いました。市内の分館を全部回っていただいて、最後、本館に来ていただくと宝箱を開けられるというイベントをやりましたら、100人以上回っていただきました。開けていただく宝箱には職員が手間をかけて作った宝物が入っておりまして、それをどれにしようかなとすごく悩みながら選んでくれている姿は大変ありがた

いと感じています。多くの皆様に分館にも行っていただいて、地元の分館、違う分館も見えていただいて、いろいろな分館に触れ合っていたらと思うので、これからの先の分館の活用方法についても検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

徳武委員 ありがとうございました。せっかく日曜日開いたので、何かいい形があつて今後も継続さればうれしいなと思った次第です。以上です。ありがとうございました。

赤羽教育長 関連してはよろしいでしょうか。

壺委員 えんぱーくリニューアルオープンした一方で、内線電話が5か月間使えなかったという話がありました。あれは市役所とえんぱーくの内線という意味ですか。えんぱーくの中だけではなくて。

矢澤市民交流センター長（図書館長） 中は使えます。

壺委員 中は使える。それで、5か月間そのままの状態で作えない状態だったのですけれど、今後はどういう予定でいるのか教えていただきたいと思います。

矢澤市民交流センター長（図書館長） ありがとうございます。市役所とえんぱーくのところで内線が使えない理由が、交換機のメーカーが違うためです。故障時に修理業者が持っていた代替機が、本庁で使っている交換機のメーカーが違っていたため、内線番号が使えない状態になってしまっています。

本庁舎の交換機が更新すべき年数をかなり過ぎている状況であり、今後の方向性について、決まった上で市民交流センターの方向性も決める必要があったため、5か月間そのままの状態になって待っていたという状態でございます。

今後についてですが、予算をしっかりと組んでいる最中でございまして、今のままでいけば、来年度の当初予算でお金をつけていただけるようになりそうなので、ただ、そこから半年くらい、オーダーメイドになりますので、半年後くらいになってしまうということで、10月、11月くらいにようやく元に戻るというような状況が今見えているところでございます。

壺委員 私個人としては、結構莫大な費用がかかるので、使えないことに何か不都合があるのかなと思うのです。例えばえんぱーくの中に入っている機関はもう決まっているわけですし、市役所に入っているのも決まっているので、利用者が選択してどちらかにかければいだけだと思うのです。わざわざ何でつなげるのかなと思うのです。だから、その費用があつたら、違うところに使ったほうがいいのかと思ったので、行政としての方向性をこれから注意して見ていきたいと思っているところと、議会でまたそんな話が出るのではないかと思いますので、準備しておいたほうがいいのかと思います。

矢澤市民交流センター長（図書館長） 現状、内線が使えないのはどれくらい影響があるのだというお話をいただいたかと思うのですけれども、図書館の分館にも電話をかけるに当たって、1回外線にかけないといけなくなるのです。そうすると、全て外線の通話料がかかってしまう。また、市役所からえんぱーくにかけるときもそうですし、えんぱーくから市役所にかけるときも、まず代表番号なりダイヤルインにかけてからなので、かけている間中ずっと電話代がかかっているという現状がありまして、それでかなり電話代が高くなってきているので、このまま現状ほっておくと、そっちのほうがかだんだんいつかは大きくなってしまふ部分がございますので、そういうことでやらせていただく方向で予算計上させていただいております。

赤羽教育長 よろしいですか。

壺委員 いいです。

赤羽教育長 ありがとうございます。では続いて。

壺委員 塩尻西小の大野校長先生のことが本当に残念でしょうがないのですが、その後の塩尻西小学校としては、1月にそのまま続けてライブを3本やりまして、2月も5本用意されています。

その中でも6年2組が全員で「鶴の倍返し」というオリジナルの劇をやったりとか、あと、皆さんに注目して見てもらいたいと思っているのが、ライブはホームページに載っているのですが、また日にちを確認してもらいたいのですけれど、2月14日に3年生がブラックキャッツというバンドを組んでいるのです。3年の女の子6人がバンドを組んでいるのですが、実はドラムやっている子とギターやっている子は半年前から楽器を始めて、そのギターの子が今度、大野校長先生のギターを使って演奏するというので、一番私が推しているバンドということもありますが、ぜひ見てほしいなというのがあります。

2月をもって、セカンドシーズン西小ライブは一旦終わりで、また来年度どうするかという話なのですけれども、子どもたちが積極的に毎月毎月これやりたいと言ってやっているのです、できれば来年度も続けていきたいと思っていますし、大野校長先生の思いが子どもたちにも残っていて、本当によかったなと思っています。また先生たちも協力してやってくださっているのです、すごくありがたく思っています。私からは以上です。

赤羽教育長 今日も西小ライブありますよね。

壺委員 今日もそうです。

赤羽教育長 では続けてお願いします。

八島委員 新学期も始まり、丘中学校のカフェ丘も変わりなくにぎわっています。昨日、カフェ丘ミーティングも行い、今年はダスク活動も加わったため、教職員より貴重な感想を頂くことができました。中には、ダスクの地域貢献活動は教職員からは様子が見えにくく、想像での共感しかできない、実際の情報共有ができれば、もっと学校側も支援や協力ができるのではないかとといった感想も頂きました。

今後、地域の部活動移行に関しても同様に、生徒の学校外の活動が教職員からは見える化しにくくなることも予想され生徒の実際の様子が見えづらくなることで、教職員の心情は希薄になる可能性もあるのだなと感想から感じることができました。

イベント報告としては、先日開催された平出遺跡のライトアップイベントを鑑賞させていただきました。スタート時間に合わせ夕暮れどきに足を運ばせていただきました。園児たちが描いた絵が灯籠に飾られ、色彩豊かな光の園路がとてもきれいでした。全ての絵を眺めることはできませんでしたが、子どもたちの絵が灯籠の中で遊んでいる感覚で、まるで妖精がいるような感じであり、とても幻想的だったなと感動させていただきました。

復元住居がバックにライトアップされ、こちらも幻想的でした。子連れで来園されたご家族は、わが子が描いた絵を探し、写真撮影をされていました。そんなほっこりした団らんを横目で見ながら、夕暮れどきの薄暗さと灯籠のオレンジの光が不安や恐怖を浄化してくださり、とても心が救われました。本当に感動しました。ありがとうございました。

また、本日は年始めの定例会であり、子どもたちの心の揺れ、エモーションと一緒に体感していただきたいなと思い、曲を用意させていただきました、よろしいでしょうか。

御存じかもしれませんが、スガシカオのProgress曲です。5年前、2019年に中学

生の道徳の教科書に採用されたものです。音楽の教科書ではなく、道徳の教科書にという採用されたことで話題になりました。

私は「自分らしさ」という表現はあまり好きではありません。この歌詞は、優しく語りかけてそっと寄り添ってくれている歌詞だなと感じます。ありふれた未来や自分というものに惑わされることなく、あと一步、前に進もう。そんな気持ちにさせられる詞です。と一緒に教科書を見ながら、聞いていただきたいと思います。

〔曲「Progress」を流す〕

八島委員 長くなってしまうので、途中で止めます。とても良い曲だなと思っています。みなさんどうでしたか？塩尻市の教育活動が理想を追いかけて上っ面ばかり並べるのではなく、真に子どもたちと向き合っていく、そんな大人の集団になってほしいと願っております。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございました。そのほかよろしいでしょうか。

碓井教育長職務代理者 2点お願いいたします。1点目は、先週あった長野駅での殺傷事件に関連してであります。22日の夜、長野駅前で3人の方が殺傷されるという、信じられないような非常に痛ましい事件がありました。その事件の容疑者逮捕までしばらく時間がかかって、その間、周辺の地域や学校は安全確保の対応等に苦慮されたという報道もありました。

塩尻市は距離的には大分離れていたわけでありますけれども、特に市内の子どもたちの安全確保に向けて、市教委として何か対応されたのかどうか、そのような点をお聞きしたいと思います。

それから2点目は、県教委の学びの実践校TOCO-TONについてであります。12月の初旬に、県教委が学びの実践校TOCO-TONで県内12市町村70校を指定という新聞報道がありました。隣の岡谷市は、市内全域で指定を受けたということですが、この学びの実践校TOCO-TONとはどういう内容で、塩尻市はどういう対応をされたのか、そのような点について教えていただければと思います。以上、2点であります。

上條学校教育課長 最初の1点目、長野駅の事件を受けまして、翌日に学校宛てに教職員間で、生徒児童の安全について、例えば不審者がいないかどうかを含めて、登下校の安全確保に努めてください。というような回覧を全小中学校に出しております。また、同じく翌日には、保護者向けにも市教委から注意喚起という形で、各家庭においても見守りも含めて対応していただきたいという周知をさせていただいた経過がございます。

2点目のTOCO-TONにつきましては、新たな学校教育の形で、詳細については次の協議会で説明させていただきたいと思いますけれども、今回、県内で採用された多くが小中連携といったことを掲げたところが採用されている状況になっています。

塩尻市では市内で取り組んでいる、例えば塩尻西部中や檜川小中などを部分的に取り上げ、それを全市で取り組みたいという形で申請をさせていただきましたが、県の採用にはいたらなかったという状況。ただ、採用には至りませんでした。県からは、相談であったり、一応気にかけていただけるというようなお話は頂いています。TOCO-TONで行おうとしていたことについてはそのまま取り組んでいきたいと思っていますし、相談等については、県に個別に相談をして進めていきたいと考えております。

碓井教育長職務代理者 ありがとうございました。1点目の殺傷事件に関連してでありますけれども、このようなことはあってはならないわけですが、万が一のときには学校や行政、保

護者、地域等が協力して子どもたちの安全を確保していくというふうになるかと思います。今回は注意喚起というような形で、学校にも保護者にもしていただいたということでありま
すけれども、今もコミュニティ・スクール等で安全確保といいますか、子どもたちの安全面
も含めた連携を図っているわけでありま
すけれども、一層密にしていっていただければと思
います。

また、この事件の背景等についてはよく分かっていない部分もあるのですけれども、先ほ
ど八島委員から中学の道徳に載っている教材のお話もありましたが、教育活動の中でも、命
の大切さや他との関わり方、自己実現への考え方等について地道に学べるようにしていくこ
とも教育の大事な使命ではないかというようなことも改めて感じました。そんな点も含めて、
またよろしくお願
いしたいと思
います。

それから、学びの実践校TOCO-TONについてなのですが、今お話をお聞
きすると、市内でも幾つかの学校がこの事業に応募したということ
でいいわけですね。

上條学校教育課長 提案をいただいて、塩尻市として提案したものです。

碓井教育長職務代理者 実践校に選ばれずに、私も残念に思っております。ただ、今課長から
もありましたけれども、子どもにとって楽しい学校づくりとか、明日も行きたい学校づくり
については、市教委でも重みを置いていると思
いますし、市内各学校でも取り組んでいただ
いていると思
います。多分ウェルビーイングの方向で、それを実感できる学校づくりという
方向だと思
っているのですけれども、その方向は今の子どもたちの不登校等の現状を見ても、
非常に大事な取組だと思
います。

塩尻市では、元気っ子応援事業やコミュニティ・スクールはじめ、よい事業をやっ
てく
ていると私は思
いますので、その取組を生かすとともに、新たな取組等も始めていますので、
ぜひそれらを総合して、さらに楽しい学校づくり、ウェルビーイングを実感できる学校づく
りに向けてやっ
ていただきたいと思
います。お願
いいたし
ます。

赤羽教育長 ありがとうございます。今、TOCO-TONの話が出ました。かなり少ないと
いうか、募集の範囲が狭くて、とても全部に対応できないということで、私も県の教育長に
確認したところ、また来年以降もその枠を広げながら進めていくというお話も伺
っています。今言われたみたいに、ほかのことにもしっかり挑戦していきたいと思
います。ありが
うござ
います。

そのほかはよろしいでしょうか。ありがとうございました。

○報告第1号 主な行事等報告について

赤羽教育長 それでは、報告第1号、主な行事等報告についてお願
いいたし
ます。資料1ペー
ジから3ペー
ジです。事務局から主要な行事について説明をお願いします。

古畑文化財課長 私からは、まず資料の1ページの上段、12月14日土曜日の自然博物館の自
然科学講座「活断層大地震に備える」の報告ですけれども、こちらは北部交流センターで行
いま
して、31人の参加がありました。地震のメカニズムについて、事例を基にデータで説明
を受け、解説には信大の廣内教授をお願いをして講義を受けました。平時にどれだけ知識を
身につけて有事に対応できるかというよう
なところ、自分ごととして意識づけるというこ
とを目的に講座を行いました。

次のページの上段になりますけれども、塩尻短歌館秋の企画展でござ
います。こちらは10

月2日から12月27日の期間で、展示の部と交流会の2本立てでございます。まず展示については、島木赤彦と弟子との関わりとか、地元の医師の歌人との交流の足跡というようなものを重点に展示を行いました。また、交流会につきましては、愛好者同士が短歌会を行うという、ふだん会わない人たちの貴重な機会となったということで、企画展につきましては来館者921人、短歌会、交流会については14人、合計935人の参加がありました。私からは以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。続けて。

上條交流文化部次長（社会教育スポーツ課長） 2ページ下段、1月7日、新年の恒例行事として書き初め大会を今年も塩尻書道連盟の皆様にご講師として御協力をいただきまして、46人の参加で、総合文化センターで行いました。

次ページの二十歳のつどいにつきましては、冒頭、教育長から詳細な報告がありましたので、私の説明は割愛いたします。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様から何か質問等ありましたらお願いいたします。

碓井教育長職務代理者 12月15日にw a c c oの「大学生と一緒に語ろう」の第1回がえんてらすで行われました。報告は載っていないですけれども、少し触れさせていただきたいと思います。このイベントは、中止になったちびてつの代替ということで、私は、考えること、特に正解のないことについて、それぞれが交流する中で考えを深める経験は大事だと思っていて、小中学生が大学生との交流の中でどんな学びがあるのかなどに興味がありましたので、参加させていただきました。

当日は大学生が9人、中学生が1人、小学生が2人という参加者だったと思います。活動は、まず、ござの上に円形になってお菓子等を食べながら、ゆったりとした柔らかな雰囲気でご自己紹介したり、すごろく等をしたりしてから、仲良くなるとなぜおそろいになるのか、具体的には、服とか持ち物が、仲よくなるとなぜおそろいになるというテーマで話し合いが進んでいきました。

来ていただいた大学生は信大の皆さんということで、県下各地から塩尻においでになったということですが、皆さん本当に真摯で穏やかな態度で物事に当たっておられて、すばらしい方々だなと感じました。

小学生は1年生が2人ということで、少し発達段階的に厳しいものがあつたかなということも感じたわけですが、こういう場は大変貴重ないい場だと思いますし、こういうことに関心を持っているお子さんや御家庭も少なからずあるのではないかと思いますので、今後どう参加者を募っていくのか、そんな点が大事になってくるのではないかと思います。

繰り返しになりますが、スタッフの皆さんは本当にすばらしいので、ぜひ可能なら、もう少し多くの小中学生がこのような体験をできるよう工夫していただけるとありがたいという思いを私は持ちました。以上です。

赤羽教育長 この件に関して。

矢澤市民交流センター長（図書館長） ありがとうございます。落としてしまっておりまして申し訳ありませんでした。今、碓井教育長職務代理者のほうからお話をいただきましたけれども、まさに参加人数は少なかったのですが、来たお子さんたちが本当に学びになっ

ていた部分をすごく実感できたイベントでもありました。私もそちらに同席させていただきまして一緒に流れを見ていたのですが、本当に信大生たちが、来た子たち一人一人に対してしっかり配慮ができるところの部分も、大変良いイベントになったなと思っております。

今年度、新たな形で1回実施できたので、来年度に向けて今予算取りをさせていただいているところでございます。その中で、碓井教育長職務代理者のほうでお話がありましたけれども、どうやっていろいろな人に来ていただくか、また知っていただく機会を設けていくことが重要ではないかということで、哲学というものをどういうふうに捉えられるかというところを親子で来ていただいて感じていただける、知っていただけるようなイベントをまず1回やって、そこから実際にお子さんたちが哲学に触れていく、中に入っていくというようなイベントにしていけたらいいなというふうに現段階では考えている最中でございます。ありがとうございます。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。そのほかございますか。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 ありがとうございます。では、次に進みます。

○報告第2号 2月の行事予定等について

赤羽教育長 報告第2号、2月の行事予定について、4ページをお願いします。皆さん全員に関わるものは、20日に定例教育委員会・協議会があります。それから第9回こどもしおじり、それから塩尻市コミュニティ・スクール&公民館フェスタなどの行事がありますので、委員の皆様も御都合がございましたら御覧いただければと思います。

見ていただきまして、何かありましたら、御質問をお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 ないようですので、次に進みます。

○報告第3号 後援・共催について

赤羽教育長 報告第3号、後援・共催について、資料5ページ、6ページです。見ていただきまして、質問、御意見がありましたら、この後お願いいたします。

碓井教育長職務代理者 5ページの受付番号7番に、12月24日長野県総合教育センター教科等教育研修とあるのですけれども、これはどんな内容なのでしょうか。

矢澤市民交流センター長(図書館長) こちらは、例年申請いただいているものになりますが、県の教育センターと、市民交流センターと隔年で講座を行っております。

碓井教育長職務代理者 総合教育センターのほうで中身を決めて、えんば一くでやると、そんな形なのですか。分かりました。

赤羽教育長 よろしいですか。そのほかございますでしょうか。

ありがとうございます。それでは、次に進みたいと思います。

○報告第4号 塩尻市議会 12月定例会報告

赤羽教育長 報告第4号、塩尻市議会12月定例会報告ですが、資料7ページから25ページです。それぞれ事務局から説明のほうをお願いいたします。

上條学校教育課長 それでは資料N o. 4、7ページのほうを御覧ください。令和6年塩尻市議会12月定例会に関わる教育委員会関係の報告になります。

提出議案につきましては予算案件1件、報告案件1件でございます。提出議案につきましては11月27日に提出され、12月19日の本会議において原案どおり可決されております。また、報告案件につきましても12月19日に報告受理されております。この後、議案及び報告につきましては担当の課長から、代表質問、一般質問及び委員会審査の概要につきましては各部長から資料の順に説明させていただきます。

竹中子ども教育部次長（こども未来課長） それでは、8ページをお願いいたします。教育委員会関係補正予算（第9号）の報告でございます。

まず歳出のN o. 1こども未来課、3款2項3目ひとり親家庭福祉推進事業の高等職業訓練促進給付金168万2,000円の補正でございますけれども、こちらの給付金ですが、就労につながる資格、スキル等を習得するための講座等を受講するひとり親に対して生活費等の一部を補助するものでありまして、申請者の増加による支出見込額の増加に伴う増額補正でございます。

関連しまして、次の9ページ歳入、一番下の表でございますが、N o. 1こども未来課、高等職業訓練補助金として126万2,000円が国のほうから充当されたものでございます。以上です。

赤羽教育長 続けてお願いします。

塩原保育課長 お戻りいただきまして、8ページになります。保育課関係になります。N o. 2からN o. 4につきましては、いずれも前年度概算交付されました国庫補助及び県補助の事業費の確定に伴いまして、国庫等へ返還するものでございます。

N o. 5につきましては、食材費の近年の高騰に伴いまして、公立保育園の給食費を増額したことになります。

併せて、関連します10ページ、歳入のほうをお願いいたします。N o. 2とN o. 3につきましては、いずれも先ほどございましたが、同じように過年度事業費の確定に伴いまして、こちらは追加で交付となるものでございます。

N o. 4につきましては、公立保育園の給食費を喫食した職員から徴収する給食費につきまして、これまでより1人1食当たり10円負担をしていただくものとなっております。私からは以上です。

上條学校教育課長 それでは、お戻りいただきまして、8ページのN o. 6と次のページのN o. 10を併せて御覧ください。内容は同じになります。小学校及び中学校の学校管理費のうち燃料費の増額につきましては、昨年の夏の猛暑などによりまして、エアコンの燃料であるガス消費が増えたことによる補正でございます。

続きまして、また戻っていただいて8ページの7と次のページの8及び11、12の4項目になります。こちらにつきましては、小学校及び中学校の給食運営事業諸経費の給食費及び炊飯加工業務委託料の増額につきましては、物価高騰に伴う補正でございます。特に給食費につきましては、米代が昨年の4月時点でキロ単価当たり税抜き326円でしたが、11月の新米からキロ単価が404円、78円の増額になったことにより増額となっておりまして、この増額分につきましては公費負担とさせていただいております。

続きまして、N o. 9を御覧ください。備品購入費の増額につきましては、塩尻東小学校

の牛乳保冷庫及び宗賀小学校のスチームオーブンが経年劣化のため故障が続いていることによる買換えでございます。説明は以上でございます。

赤羽教育長 続けてお願いします。

上條交流文化部次長（社会教育スポーツ課長） 9ページの13番を御覧ください。文化会館改修事業工事請負費1,700万円余の増額補正です。文化会館大ホールの舞台の消火設備でありますスプリンクラーの設備につきまして、昨年7月に消防設備点検の折に故障が指摘されたものでございます。大ホールのスプリンクラーにつきましては5系統ございまして、そのうち3系統の故障を今回緊急的に修理するものでございます。ほかの部分につきましても経年劣化が進んでおりまして、平成8年の開館以降、今のところ修理をした履歴がない設備でございますので、残りにつきましては大規模改修に合わせて修理をする予定になっております。

財源につきまして、10ページを御覧ください。5番ですけれども、この財源といたしまして、公共施設等適正管理推進事業債、充当率90%の地方債を充当するということで歳入の補正をしたものでございます。私からは以上です。

赤羽教育長 引き続きお願いします。

小松平出博物館長 それでは、ページをお戻りいただきまして9ページの14番をお願いいたします。復元住居改修工事ということで、こちらにつきましては、平出遺跡公園内にあります復元住居、こちらの2棟の住居につきまして復元ということで予定しております。その中で屋根のカヤ材の高騰、また人件費の高騰がございまして、今回増額補正をさせていただきました。

関連といたしまして、10ページの6番になりますけれども、財源といたしましては、地域活性化事業債ということで、90%の充当率ということで、こちらのほうを財源として予定してございます。私からは以上です。

赤羽教育長 ここで一回切りますか。続けていいですか。では、続けてお願いします。

上條学校教育課長 続きまして、11ページを御覧ください。損害賠償の額の決定の専決処分報告につきましては、損害賠償の額が決定したことに伴い、9月30日に市長による専決処分となったことを報告するものでございます。

事故の内容ですが、桔梗小学校駐車場の樹木の剪定をしていた際、落下した枝が当該駐車場に駐車していた相手方の車両の左側ドア側面に当たり破損させたものであります。なお、この事案につきましては、12月の前回の定例教育委員会の指導上の措置の審査案件として御審議いただいております。説明は以上になります。

赤羽教育長 続けてお願いします。

胡桃交流文化部次長 それでは、資料12ページを御覧ください。市議会12月定例会に関わる教育委員会報告を行います。初めに交流文化部に関わる部分でございます。本会議では代表質問として3名、一般質問として1名の議員から質問がございました。レザンホールについて、新平出博物館、市営野球場、子どもの運動機会の充実に向けた施策に関しお尋ねがございました。

番号1番、中村努議員からレザンホールについて質問があり、委託業務の内容の概要について、各段階にかかる費用と市の方針について、CM方式にした理由についてと大きく3点に質問があり、答弁いたしました。

委託業者は特定天井耐震化及び大規模改修工事基本計画等の業務を委託している。大中ホール特定天井耐震化改修の約7億円を最優先とし、照明LED化、トイレ改修、舞台吊物機構改修等、各項目の優先順位をつけるなどし、特定財源などを幅広く研究し、総事業費の見立てを行い、方針を検討していく。CM方式を採用した理由は、当市で初めて採用したユメックスアリーナでの実績を踏まえたものである。建築に関する高い知識を持った専門家集団が技術的な中立性を保ちつつ、発注者の側に立ち、設計・発注・施工の各段階において各種マネジメント業務を行うことにより、発注者の人的体制・能力の質的・量的補完が図られ、併せて委託料を上回る当該事業経費の縮減を図ることができる。と答えしております。

続きまして、資料をおめくりいただき、13ページでございます。番号3番及び4番、赤羽誠治議員から大型ハード事業と公共施設等総合管理計画についてとし、新平出博物館の進捗状況と市営球場の今後の在り方をどう考えているか。こちらは次ページ、7番、8番の平間正治議員からも同様の質問をいただいております。

新平出博物館整備事業については、令和10年オープンを目指していたが、当初見込んでいた財源確保が困難な状況のため、事業に遅れが出ている。整備事業に向けて引き続き国等の動向を注視するとともに、他市町村の整備事例等を研究し、有利適切な財源確保に努めてまいりたい。と答弁しております。

市営球場については、第6次塩尻市総合計画の重要な検討事項であるものの、建て替えの時期、場所、事業規模、事業費など、基本方針の決定には至っていない。市営野球場の新設は、来年度より策定する公共施設整備計画の中で、新平出博物館を含め市が所有する既存施設全体を考慮し検討を進める必要がある。市の長期財政推計を踏まえると、既存施設の統廃合を検討すべきであり、新規に整備計画を計画する場合は、複合的な施設機能を備えた計画を検討していくことになるかと考える。県営野球場の誘致については、近隣市町村や野球関係者等の皆さんと意見交換等継続してまいる。と申し上げております。

続いて資料15ページから、番号9番から12番まで、山崎油美子議員から、子どもの運動機会の充実に向けた具体的施策に関し4点質問がございました。そのうち番号11番、地域と学校の連携による強化策について、子どもの体力向上を目的とした取組について、具体的には地域と学校がどのように連携するか。と質問があり、市スポーツ推進計画の幼児期からの運動プログラムの推進では、長野県が独自に開発した長野県版運動プログラムの普及を目指すこととしている。県では、運動プログラムの動画DVDを作成し、保育園・小学校などに配布を行い、体を支える遊び、体を引きつける遊び、はねる・跳ぶなどを幼児が実際に行う動画で分かりやすく紹介している。また、運動遊びによってもたらされる効果が体力の向上にとどまらず、コミュニケーション能力などの発達にも及ぶことなど、その有効性が解説されている。と答えしております。

続いて資料17ページ、予算決算常任委員会では、番号1番、百瀬友彦委員から、復元住居改修工事の発注が年度当初ではなくこの時期になったのはなぜか、平出遺跡公園でガバメントクラウドファンディングを行っているが、これも財源の一つとなるのか。と質問があり、復元住居の改修工事については、これまでも遺跡公園の来場者が比較的少ない冬期間に行うよう配慮してきた。また、屋根の材料となる茅の収穫時期が11月以降の冬季に当たることなども要因の一つとなっている。クラウドファンディングで集まった資金を財源に充当するかについては、財政課と調整していく。と答弁しております。交流文化部に関する報告は以上で

ございます。

赤羽教育長 ありがとうございます。

竹中こども教育部次長（こども未来課長） こども教育部につきましては、6名の議員さんから質問をいただいております。主な質問の概要についてのみ御報告をいたします。

まず、18ページ1番でございます。中村努議員から中学生のキャリア教育の取組状況について御質問がありました。答弁としては、本年度から学校と地域、企業とをつなぐコーディネートはNPOに委託している。円滑に学校の教育活動を行うことができるよう取組を進めている。一例として塩尻西部中では、2年生の職場体験の事前学習として講師を招き、生徒が従業員にインタビューする取組が行われたなどと答弁しております。

続きまして19ページ、赤羽誠治委員からであります。中学校部活動の地域移行について、その具体的な姿について御質問がありました。休日の地域移行で考えた場合、幾つかの競技種目で受皿となり得る指導者や団体の候補はあるものの、平日も含めた場合は、指導者を含めた十分な受皿の確保は難しい状況にあると考えているなどと答弁いたしております。

続きまして次の20ページ、No. 4であります。中学校部活動の地域移行に関わりまして、保護者の経済的負担の現状と移行後の見込みについて御質問がありました。現状については、学校の部活動の場合、大会参加費などの実費のみを保護者に負担していただいている。地域のクラブに所属している場合は、月に1,000円から2,000円程度を保護者が負担しているケースが多くなっている。地域移行した場合の保護者の経済的負担の見込みについては、大会参加費等の実費を除いて生徒1人当たり合計で月1,400円と見込まれている。また、平日4日、週末1日の計5日活動する場合は、生徒1人当たり約3,000円と見込まれている。いずれにいたしましても、経済的理由による生徒の体験格差が生じないように、活動費を補助する仕組みなどについて研究していくと答弁しております。

飛びまして22ページ、No. 6でございます。赤羽誠治議員から小中学校の給食について、調理員の待遇と人員について御質問がありました。給食調理員の人員配置については、国から児童生徒数に応じた配置基準が示されており、国の配置基準よりも1から3名程度多い給食調理員の配置をしているなどと答弁しております。

続きまして23ページ、No. 8、小澤彰一議員のほうから部活動の地域移行に伴う指導者確保と指導者手当について御質問がありました。指導者確保の見通しについては、平日の指導者確保は大変厳しい状況にあると受け止めている。指導手当の必要額の見込みについても、1時間当たりで国が用いている1,100円で試算した場合、合計で2,904万円が必要となる見込みである。今回試算に用いた1,100円よりも高い金額設定が必要になると見込んでいることから、国県の財政支援の動向を注視していくなどと答弁しております。

続きまして24ページ、No. 10でございます。篠原敏宏議員から小中学校の不登校の実態について、子どもの居場所対策について、対策状況はという御質問がありました。当市では、登校はできるが自分のクラスに入りづらい児童生徒が落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる場所としてスペシャル・サポートルームを市内8校に設置し、塩尻西小学校敷地内と市総合文化センター内で高ボッチ教室を運営、塩尻西小学校内に高ボッチ教室チャレンジルームを開設し、自ら選んで学べる環境を順次整えている。また、本年4月から新たに、いずみ塾広丘駅前校と連携した居場所確保の実証事業に取り組んでいるなど、多様な居場所づくりを広げていくと答弁しております。

続きまして 25 ページ、N o. 12、山崎油美子議員のほうから物価高騰対策における学校給食費軽減策についてということで、追加的な軽減策について御質問がありました。今年の新米価格は 11 月現在、当初契約時の 4 月と比較してキロ単価が 2 割以上高騰しているため、増額補正予算を上程しており、この値上げ分については全額公費負担とすることで保護者負担の軽減を図る予定であると答弁しております。

その 2 つ下、N o. 14 でございますが、市内統一献立の可能性についてということで、市内で統一した献立にすることで調達コストや運営コストの削減が可能ではないかという御質問をいただいております。農産物等の一括購入については、一括購入しても個別購入しても総額はほぼ変わらず、また、市が進めている地産地消とかけ離れること、また、統一献立とした場合、アレルギー対応児童生徒が多いほど煩雑になるため、課題があると答弁しております。以上、こども教育部の教育委員会報告であります。

赤羽教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いします。

碓井教育長職務代理者 8 ページ、9 ページ、補正予算の関係で、8 ページの 7 番、9 ページの 8 番、11 番、12 番の給食関連について、物価が上がっていて食料品の値上がりも非常に大きい現状があるので、給食費の値上がりも避けられないかなというようなことを感じるわけですが、そういう中で保護者負担を抑えるために増額補正をしていただくことは本当にありがたいというふうに思います。現実には、今 1 食当たり幾らになっていて、その内訳として保護者負担は幾らで、補助がどのぐらいになっていると考えたらいいのでしょうか。

上條学校教育課長 今年度の給食費につきましては、小学校が 1 食 330 円、中学校が 380 円です。そのうち保護者負担が、小学校は 300 円、中学校は 350 円となっております、それぞれ 30 円ずつ市が公費負担をしております。大体予算的には 2,500 万円から 3,000 万円くらいが市費という形になってございます。

碓井教育長職務代理者 分かりました。できるだけ保護者負担が少なくなるように、可能な限り補助を続けていただくというような方向で今後とも御検討いただければありがたいなと思います。

赤羽教育長 続けて。

壺委員 8 ページの 1 番の申請者の増加の背景はどんなものか、教えてください。

竹中こども教育部次長(こども未来課長) この制度の対象となる資格ですけれども、看護師、准看護師、保育士、介護福祉士、作業療法士、美容師あるいは I C T 関係などがあります。実は今年度の 4 月から国家資格で登録日本語教員が追加されまして、新たにこれへの受講者が 2 人増えたというところが、補正の理由であります。

赤羽教育長 いいですか。

壺委員 ありがとうございます。

赤羽教育長 そのほかございましたでしょうか。続けてお願いします。

壺委員 17 ページの 1 番の平出遺跡の公園事業にガバメントクラウドファンディングを行ったと思うのですが、その回答で、財政課と調整していくと書いてありますけれど、例えばクラウドファンディングで集めたお金は全部そこに使うというのが筋だと思うのです。逆に調整して何に使う可能性があるのかなと思って、お聞きしたいと思います。

小松平出博物館長 今おっしゃったように、基本的には使う目的があってクラウドファンディ

ングをしているものですから、そちらのほうに充当されるというふうになろうかと思いたすけれども、ただ、原課としてお金をそこに動かさないものですから、それは財政課と調整するというような形で答弁しているものですから、基本的には、この平出遺跡公園事業の中に充当されるという予定です。

審委員 目標金額を超えていますよね。その超えている部分も全部充てるということになる。

小松平出博物館長 そういうことになります。

審委員 分かりました。

赤羽教育長 ほかにありませんでしょうか。

審委員 25 ページの山崎議員の質問があまり好きではないのですが、管理栄養士とか栄養士がすごく考えて給食を作ってくれているし、自校給食にするというのは、子どもたちが学習の一環で作っている作物もありますよね。野菜にしても果物にしても、お米にしても、そういったものを一つ一つ丁寧に子どもたちに与えることが食育であって、管理栄養士たちの仕事だと思うのです。

だから、やんわり回答されているので、もう少し強く回答してしまったほうがいいのではないかなと思います。これは夢も何もないですね、もし統一でメニューを作ったとしたら A I でもいいですよ。バランスだけを考えたら。先ほど言うように、アレルギーの対策をするのにも、やはり細かなメニュー、それから、この間新聞に出ていたように朝食を食べない子たちが多くなってきているというのも、栄養士たちが丁寧に丁寧に給食だよりを作って指導に当たったり、家庭に呼びかけたりしているので、給食については、お金はもうどんどんかけてもいいと思いますし、もちろん無償化と騒いでいる人もいますが、そんなことよりも上がるなら上がって、豪華な食事にしていこうという心意気があってもいいぐらい大事なことだと思うので、もう少し強く回答していただきたいと思います。

赤羽教育長 御意見として受け付けます。続けてありますでしょうか。

碓井教育長職務代理者 資料の 23 ページから 24 ページにかけての 9 番、10 番、篠原議員からの不登校の実態についての質問に関連してお願いします。

23 ページに、小学校 1 年生の不登校の割合が増加し、小 1 プロブレムの解消をするため、幼保小連携に力を入れていると答弁の要旨に書かれています。小学校低学年で不登校になった場合、どう将来の社会的自立を目指すのか、その道筋が私には今のところ見えません。ここに書かれているのですけれども、ぜひ幼保小の連携に力を入れていただくとともに、本市で取り組んでいる元気っ子応援事業等も活用して、保護者の方への支援をより強化していただくことがいいのではないかと、私は経験上思っています。それぞれの事業を行っている部署は違うかと思いますが、連携を一層図っていただくことを願っております。

それから、24 ページの 10 番は、スペシャル・サポートルームや高ボッチ教室はじめ、民間の塾等とも連携して、多様な居場所や学びの場の確保を図っている旨、先ほど次長から御説明があり、資料にも書かれております。この点については、実際そこを利用している子どもに変化があって、成果が上がっているというお話も学校現場からお聞きしていますので、このような多様な場の確保について、一層の充実を図っていただきたいと思います。

先ほど徳武委員からお話がありましたけれども、1 月 20 日に育ちを見つめる笑顔の会があって、そこに私も参加させていただいたのですが、保護者の方から、なぜ塩尻にはフリースクールがないのか、フリースクールに行くためには費用がかかるが、市からの援助はない

のか、必要な情報が届いているのか等のお話がありました。

このことについては、その場で事務局の方から説明がありましたけれども、フリースクール利用者の補助について、昨日の信濃毎日新聞に、塩尻市は利用者への補助を始めているという記事が出ていました。ただ、実際は、市内に認定施設がなくて利用実績がないということも書かれていたわけでありますけれども、その辺の状況等や、このような情報がなぜ保護者にうまく届かないのか、そのような点について教えていただければと思います。

補助については、どのような場合、どの程度の補助が出るのか、その辺も私は分からないので教えていただければと思います。

上條学校教育課長 フリースクールに対する支援につきましては、今年度も一応予算は持っております。ただ、今いずみ塾広丘駅前校と連携しておりますが、現在は、いずみ塾は無償で受けているものですから、費用がかかってないという状況で、まだ補助金の活用はされてない状況でございます。なお、近隣の松本市などにも徐々にフリースクールができ始めておりますので、そういったところを使うようなお子さんがいれば、補助の対象になってまいります。が今のところ、市内から、有料の施設を使っている形での補助申請がないという状況になります。

現在、その補助要綱じゃ新年度に向けて、もう少し手厚くしていく考えで、見直しを行っております。予算査定と合わせて4月1日から運用できるような形を取りたいと思っておりますが、現在考えているものは、例えば要保護世帯や準要保護世帯、あと一般向けと親の収入に応じた形で補助率等を変えることで補助をしていく予定です。なお、昨日の新聞では、県内4市が補助制度を設けてあります。それらの補助要綱を取り寄せる中で、一番県内で手厚い支援をしている自治体に合わせる形を塩尻市は考えているという状況であります。

あと、周知等についてですが、4月当初から不登校支援情報などに特化したホームページ等を設ける中で周知等を行っております。また、先日20日の親の会等の開催告知についても、C4thなどで、親御さんに直接情報が行くような形は取っておりますが、なかなかまだそういった声があるようであれば、もう少し広報、周知については力を入れていきたいと考えております。

竹中こども教育部次長（こども未来課長） 最初の不登校の関係の御質問、小1プロブレムの関係ですが、確かに、答弁書の中では、元気っ子応援事業については何も記載されていなかったのですが、元気っ子応援事業としても機能しております。そうした不登校の会議ですとか幼保小連携の会議には、必ず、私も含めて担当職員も出席させていただいております。

元気っ子応援事業では、年中のときに発達の状態を見させていただくことになりますけれども、そこで少し気掛かりなお子さんは、進学後に不登校になる確率も高い傾向にあります。一方で文科省の調査では、この答弁書にも書いてある調査の結果ですが、令和5年度の不登校の要因としては、約3割が無気力な状態ということで、漠然と不登校になってしまっているという現状もありますので、発達の遅れの有無に関わらず、このような要因はあるものですから、引き続き、そうしたところは課題として関わってまいりますので、御承知おください。

碓井教育長職務代理者 フリースクール等を利用する方への補助についてですけれども、支援の具体的な金額はまだ言えないということなのでしょうか。

上條学校教育課長 現在、検討しているのは、県内で一番手厚い、上限月に3万円という自治

体があるものですから、一応、それに合わせる形を考えております。

碓井教育長職務代理者 それから、情報について、ホームページに載せていただくことはもちろん、そうしていただかなければいけないと思うのですけれども、やはりホームページの場合、情報を取りに行かないといけません。その辺が保護者の皆さん、なかなかどこにあるのか分からないということもお話の中であるものですから、ぜひ必要な方にはこちらから出していくというような形も含めて、また御検討いただければと思います。

上條学校教育課長 直接、市教委から情報提供できるように C4th も使っていますが、特に不登校の親、子どもとの接点で、子と親の心の支援員もいますので、そちらからも、こういった取組があるなどの情報提供はしていきたいと考えております。

碓井教育長職務代理者 塩尻市は利用補助を始めている県下4市の1つとして、保護者の方への支援を迅速に先進的にやっているわけでありますので、いろいろな情報も含めて、保護者の方にうまく届いて、この事業が、子どもたちのためによい後押しになるような形で進めていただくことを強く願っておりますので、よろしくお願いいたします。

赤羽教育長 続けて、関連して。

壺委員 結局、支援とかお金のことが先に出してしまうのですけれども、福岡県にある宗像市という、人口九万ちょっとくらいの都市なのですけれども、部活動の地域移行の民間の登録団体数、運動系でいくと18種目の41団体、文科系だと6種目の6団体が一覧表で出ているのです。活動日時、場所、会費と全部出ていて、それぞれが選ぶようになっているのです。ただ、どれ見ても月謝がかかるわけです。1,000円から、高いところだと5,000円、6,000円かかってくる。そうすると、やはり経済格差ではないのですけれども、できる子とできない子が出てきてしまうので、地域移行をするとすると、そのバランスが一番問題なのです。

ですので、今度、第4回の協議会が2月にありますが、どこまで話が進んでいるか分からないのですけれども、まず塩尻市で受けられる団体をリストアップして、場所と日時と月謝というふうに出して、それが果たして活動ができるかということを具体的にやっていかないといけない時期ではないかと思うのです。本当に心配なのは会費と予算です。地域移行後ではどこでもかかってくるので、市がどこまで補助できるか。先ほどの話ではないのですけれども、部活動をやっていなくて、例えば塾に行く子に対する補助も出さなければいけないとか。そうになっているので、なかなかこの予算づけができるか心配でしょうがないです。ただ、塩尻市も地域移行すると決めていますので、このように受け入れ団体を出したほうが具体的だと思います。

赤羽教育長 関係してありますか。

徳武委員 20ページ、4番のところに、保護者の経済的負担の現状についてということであるのですけれども、学校の部活動に所属している場合は、活動費は多くの部活動が集めておらず、とあるのですが、この活動費というのは一体どこまで指すのかというのがすごく疑問で、学校側はどこまで部活の活動費を負担しているのでしょうかというのと、あと、大会の参加費に月1,000円から2,000円、保護者が負担するケースが多いのではないかと書いてあります。例えば、備品が足りなくなったとか、そういうことが学校であったのですけれども、それは例えば学校に言えばすぐ買ってもらえるのかとか、それが活動費なのか、その辺がよく分からないので教えていただきたいのです。

上條学校教育課長 赤羽議員にお答えした中で、学校の部活動に所属している場合は、活動費

は多くの部活で集めていないという形になっております。主にかかっているのは、例えばユニフォーム代であったり消耗品とか、そういったものがかかっているという話は伺っております。そのほか、例えば講師謝礼であったり、そういったものはかかっておりませんし、保険に係るものについては、全て公費で賄っているという状況になります。

ただ、今後、民間移行等をしていく場合にかかる要素としては、そういった講師謝礼などそういった部分も経費の一部になってくるでしょうし、場合によっては、活動拠点とする場所の借上げなどがかかってくる場合が想定されますので、あくまでもオーソドックスな試算になりますけれども、そのような点を加味して試算させていただいた状況になります。

徳武委員 ありがとうございます。甕委員からお話がありましたけれど、多分地域移行したら、もっとお金かかるのは見えていて、それも、部活によってどうしてもすごく差が出てきってしまうと思うので、それらの整合性という大変ですけど、例えば、あっちの部活はこんなにかかるのに、こっちはこれだけとか、そういうのがあって難しいなと思うのですけれど、ここに1月当たり生徒の負担が3,000円見込まれるとあるのですけれど、逆にこれくらいで済めばいいかなという気がするのですけれど、なかなか難しい問題だと思っております。

八島委員 碓井教育長職務代理者のおっしゃられた不登校で質問ですが、不登校の中に学校に完全に来ることができない子どもたちの中には、保護者自身が学校に行かせるといった文化を持っていない保護者もいらっしゃるのではないかと思います。相談窓口では、踏み込んだ大変デリケートな部分まで深掘して聴取はされていますか。子どもに視点を当ててしまいがちですが、養育環境で、小学校1年生が不登校になる理由には、子どもの意思よりも、保護者の養育思考も考えられるのではないかと思います。保護者自身が不登校経験者であり、学校に行くといった文化がご自身の中に育成されていないケースもあるのではないかと思います。立ち入ったと申しますか、踏み込んだ聴取はされているのか教えていただきたいです。

上條学校教育課長 八島委員がおっしゃる親の例えば生い立ちであったり、そういったところまで把握していることはありませんが、場合によっては、自分の生活してきた環境をそのまま我が子に置き換えてというのは、数ある家庭の中ではあるのかなと思っております。

八島委員 具体的にチャックダウンしていくアンケート聴取が可能であるのか存じませんが、既存から外れた深層までも少し聴取が可能であれば、分析にも変化がみられ、新しい支援が見つかるのではないでしょう

赤羽教育長 村上主任学校教育指導員、もし何か分かることがあったら、お願いいたします。

村上主任学校教育指導員 本当にいろいろな多様なお子さんがいますし、多様な御家庭があつて、その事象として不登校、学校に登校しなかったり、されなかったりというふうに捉えておりますが、本当に様々な事案と申しますか、いろいろな御家庭が塩尻市内にもございます。

八島委員 それは理解していますが、その様々をもう少し分析する必要があるのではないかと思います。

上條学校教育課長 例えば、そういった不登校の親御さんと一番接するのが子と親の心の支援員となります。保護者の相談にも常に乗っていますので、例えば、そこでもう少し踏み込んだ内容であったり、心が通じ合うようなところまでいくようであれば、そういった情報などをこちらが知ることができるかなと思っておりますが、現状は支援員から、プライベートな面もあるので、確認することは難しいと考えております。

碓井教育長職務代理者 私の経験では、小学校、特に低学年のお子さんの情報把握は、元気っ子応援事業が一番大きなウエートを占めると思います。この事業では、ほぼ全員面談というか、対応していて、そこに来ない人もいるわけですね。そういうところも把握していますので、その辺の実情を大事に、行政、学校含めて保護者に働きかけて、義務教育に向かってもらうということをしていましたけれども、元気っ子応援事業の前の段階、乳幼児の段階でもいろいろありますよね。その辺のところをつなげていくと、かなり分かってくるというふうに思いますし、手だても考えられると思いますが、そんな点いかがでしょうか。

竹中こども教育部次長（こども未来課長） 先ほど学校教育課長がおっしゃったように、子と親の心の支援員はしっかりと家庭に寄り添って伴走しているので、保護者から直接聞かなくても、その保護者の考え方とか生活のスタイルですとか、そういった部分から登校に対する意識というのは肌で感じていると思いますし、そういったお話は相談員とも必要に応じて共有をさせていただいております。

元気っ子応援事業でもほぼ全員の保護者とお子さんが年中のときにお会いして、子どもを交えて相談ができていますので、その家庭環境ですとか、そういったものを少しは把握しております。小1に向けての就学を一つのゴールとして、どのような教育環境がこの子にとって望ましいのかということ、教育支援委員会を通じて支援しています。教育長職務代理者のおっしゃるとおりです。徐々に分かってくるという部分はあるかと思います。

八島委員 教育文化がない親御さんが子育てを経験する中で、そのお子さんも不登校になる確率はどのくらいであるのか、割合の分析ができると、今、不登校が増加している誘因の一つとして新しい支援が気づけるのではないですか、親御さんの幼少期までさかのぼる分析することで、結果届きやすい支援に変わるのではないかなと思っています。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。そのほかございますか。

ありがとうございました。それでは報告のとおり御承知おきください。

本日予定されていた案件は以上でございますけれども、そのほか、委員の皆様から何かございますか。よろしいでしょうか。

4 閉会

赤羽教育長 それでは、以上をもちまして1月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後3時26分に閉会する。

以上

令和7年2月20日

署 名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 学 校 教 育 課
教 育 企 画 係 長
